

平成30年度第1回太田市指定管理者候補者審査委員会 議事録

- 日 時 平成30年10月18日(木) 午後1時30分
- 場 所 太田市役所 6階 会議室6A
- 出席者 委員長 木村 正一
委 員 竹沢 悦男、木村 早苗、茂木 真和、亀井 貴文、
正田 吉一、相澤 一彦
事務局 高島事務局長、茂木次長、田部井課長補佐、
近藤係長代理、藤本主事
所管課
(1) 福祉こども部福祉事業課
堤部長、荒木副部長、天笠参事、碓氷係長
(2) 福祉こども部社会支援課
堤部長、荒木副部長、高柳課長、小杉課長補佐、大野係長代理
事業者
(1) 太田市新田ななくさ地域活動支援センター(公募施設)
・社会福祉法人 新田愛和会
(2) 木崎放課後児童クラブ(公募施設)
・社会福祉法人 木崎育援会

1 開会(高島事務局長)

定刻になりましたので、只今より平成30年度第1回太田市指定管理者候補者審査委員会を開会いたします。本日は大変お忙しいところご出席いただきありがとうございます。本年度より事務局長を努めさせていただきます総務部総務担当副部長の高島と申します。本日は、公募2件の審査をお願いしたいと思います。長時間の審査となりますが、よろしく願いいたします。

2 挨拶(木村委員長)

みなさんこんにちは。本日はよろしくお願ひします。本日は2施設についての審議になりますが、担当課と申請者の説明と質疑の中で、各分野の専門家の皆様から貴重なご指摘やご意見を賜りながら、太田市の公の施設が指定管理者により、より良い施設運営が行われることにつながるような審査委員会にしたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

3 自己紹介

4 本日の審査会について

5 審査事項（議長：木村委員長）

(1) 太田市新田ななくさ地域活動支援センター（公募施設）

《福祉こども部福祉事業課による説明》

【質疑】

Q：アンケート結果について教えてください。また、アンケート結果をどのように生かしているか教えてください。

A：アンケート調査については、利用者とその家族の方を対象に行いました。調査では、スタッフの対面時の対応や電話対応について、言葉遣いや身だしなみなどといったこと、また、毎日の活動内容や個別支援の内容について、日々の連絡がわかりやすいかなどといったことを聞きました。回答では、挨拶がしっかりできている。また、メリハリのある生活ができているといった意見がありました。アンケート結果については、特に、個別支援について、利用者ごとに障がいの度合いがすべて違うので、個人の属性等の把握や保護者と相談しながらそれぞれに合った支援方法を検討することに活用しています。近年では、自閉症について理解が進み、国立のぞみの園の指導員に相談をする際にも活用し、自閉症の利用者に合った支援をできるようになっていると感じます。

Q：入所の基準はどのようになっていますか。

A：利用者については、障害者手帳を持っている方、また、障がいにより民間企業に就労できない方です。入所中の訓練で仕事ができるようになった方もいますし、他の民間の施設に移る方もいます。

Q：施設の概要調書によると利用者数が減少しています。利用者の減少は、今後も続くと考えていますか。

A：新田ななくさでは、たまたま高齢者の退所が続いたため利用者が減少したと考えています。新たな利用者については、高等特別支援学校を卒業後、障がいの為、民間企業で就労できないといった方が年に1名程度入所します。太田市に転入した方で入所される方もいます。

Q：職員数について、教えてください。

A：年度当初は、13名でした。現在は14名で運営しています。

Q：利用者からの意見として、入浴サービスに関する意見があったとありますがどのような意見ですか。

A：新田ななくさでは、職員がリフトを使って入浴させていますが、太田地域活動支援センターには、介護浴室があります。新田ななくさにも介護浴室をという要望があります。改修には経費が掛かりますので、改修計画を立てて、各施設順番に改修していきますと説明しています。

Q：指摘事項は職員研修で検討するとありますが、具体的にどのような行っていますか。また、どのように生かしていくかまでの議論ができていますか。

A：毎月1回、問題点と改善点を検討しています。可能なことは、翌月から運営に反映するようにしています。

Q：職員が定着しないという意見がありますが、今後はどうつなげていく考えですか。

A：低賃金という課題があります。財政状況との兼ね合いで、職員の給与を一律で上げるということはなかなかできません。定期昇給で対応したいと考えています。

Q：人件費について、決算状況と収支予測では3年間で、2000万円程度の差がありますが、整合性については取れていますか。

A：決算における人件費については、職員の離職の関係で単年の予算とも乖離が生じる可能性がありますので、あくまでも愛和会の見積りによる収支予測と実際の決算では、数字が異なっているものと考えます。

《社会福祉法人新田愛和会による説明》

【質疑】

Q：近年、猛暑や台風などの災害が多くありますが、新田ななくさでは具体的に災害関係での事故等がありますか。

A：災害等による事故はありません。先日の台風の時には、飛びそうなものは無いかと、前日に施設の周りを確認しました。しかし、施設の性質として、日々ヒヤリハットの事案はあります。

Q：これまでの指定管理者として活動してきた中で苦労したことと、それについて今後の対策があれば教えてください。

A：職員の定着が課題です。職員には、以前老人ホームで働いていた職員もいますが、新田ななくさは、業務の範囲が広いという意見もあります。老人ホームでは、食事や清掃については、専門のスタッフが行っていますが、新田ななくさでは、同じ職員が行います。そういった面で、考えていたよりも業務の範囲が広いということです。また、利用者に高齢が増えていることもあります。65歳問題がありますが、実際には60歳くらいからあります。どのように支えていくことで、65歳問題を越えて行けるかということを情報収集しながら考えています。また、わかりやすく利用者に伝えるということも考えていかなければならないと考えています。

Q：申請書の中に、心掛ける、努めるという表現が見られますが、この部分については、努力目標ということですか。

A：特に努力目標として意識して表現したわけではありません。実践する。向上させる。と表現すればよかったですと思います。

Q：研修の参加について、具体的に教えてください。

A：今年度は、初任者研修に1名、中堅職員研修に2名、リーダー研修に2名参加しました。研修に参加した職員が職場で水平展開するための機会を毎月設けています。また、外部の研修だけでなく、月に1度職員同士で、こういった場合はどうするかとかいったことを話し合う機会も設けています。

【意見】

- ・災害時の対応について、時系列に並べた利用者への対応手順の作成等、具体化に努めていただきたい。
- ・運営にあっては、経費の削減に努めていただきたい。

【審査】

- ・社会福祉法人新田愛和会　－600点満点中460点
- ・基準点（合計得点300点）以上の得点
- ・挙手全員により、社会福祉法人新田愛和会を指定管理者候補者に選定することを適当と認める。

(2) 太田市木崎放課後児童クラブ（公募施設）

《福祉こども部児童施設課による説明》

【質疑】

Q：現在、休所中とのことですが、施設の改修の必要性はありますか。

A：9月補正予算で内部を整備する予算が通りました。外壁等については新年度予算を用いて、運営を行いながら修繕しようと考えています。

Q：休所する以前の運営体制について教えてください。

A：市の職員の保育士が新田第一保育園と一体で運営していました。保育士不足や木崎児童館に放課後児童クラブができたこともあり、休所となりました。

Q：木崎児童館の放課後児童クラブの入所の要望が増えてきたことが、再開する要因ですか。

A：その通りです。現在、木崎地域には、2つの放課後児童クラブがあり、一つに51名、もう一つに41名、また、子どもプラッツに74名入所しているという状況です。

Q：開所時間について、教えてください。

A：平日については、午後3時からの開所を予定しています。帰りは基本的には午後6時30分まで、最大延長が午後7時まで、という形でお願いしたいと考え

ています

Q：応募団体は、あおぞら保育園を運営している団体ですか。

A：そうです。

Q：事業計画に園児との交流ということがありますが、問題はありますか。

A：特に問題はありません。

Q：土曜日も開所する予定ですか。

A：土曜日も午前7時30分から午後6時30分、最大延長午後7時までの開所をお願いする予定です。

Q：入所希望者は、全員入れそうですか。

A：11月から入所の募集が始まりますので、現状では何とも言えません。

Q：休所の理由に、入所者の減少と保育士不足を挙げていましたが、今後はそういう状況にはなりませんか。

A：担当課として、そういう状況にはならないと判断しています。

Q：指定管理者と緊密に連携してもらいたいと考えていますが、このように連携していくという考えはありますか。

A：当時の担当職員がいるので、その職員を中心に関わっていきたいと考えています。

《社会福祉法人木崎育援会による説明》

【質疑】

Q：何名の子どもの入所を予定していますか。

A：市からの要望は40名ですので、現在は、40名の計画になっています。しかし、定員40名ですと1年生から3年生程度でいっぱいになる可能性があります。次のステップとして、周囲の施設等の利用について市と連携しながら、第2クラブの運営を行うことも考えています。

Q：高学年の児童は入所できないということですか。

A：高学年の児童は入所できないということではなく、定員40名の中で、低学年の児童から優先して入所すると、高学年の児童が入れなくなる可能性もあるということです。

Q：支援員は新たに雇うとありますが、現在いる保育士をローテーションで活用するといった計画はありますか。

A：支援員については、指定管理者として指定された後に人選します。保育士にもマネジメントの分野に子育て支援という形で、関わってもらおうと考えています。

Q：緊急時の体制について、具体的に教えてください。

A：保育園は月に1度の防災訓練等が義務付けられています。そのノウハウを活かし、具体的にマニュアルを作成し、実際に訓練を行いたいと考えています。

Q：運営について非正規職員だけで行うということですが、児童を対象にするという施設の性質の中で、職員が困らないようにという対策は考えていますか。

A：今後、職員同士の連携等も考えたいと思います。

Q：2年前に設立した団体ですが、財務状況の分析や今後の展望をどう考えていますか。

A：団体設立時の借入は8か月で返済しました。今年度は、約1千万の繰越があり、財務状況は安定していると考えています。保育園の運営は、児童数がすべてと考えていますが、入園希望の見学者は安定して来ていますので、現状では将来に財務状況が不安定化するとは考えていません。しかし、少子化を見据えて、個性や魅力を持った保育園を作っていくことが、5年くらいで求められていくと考えており、5年間で勝負と思っています。

Q：情報公開及び個人情報保護について、原則として個人情報の持ち出し禁止としていますが、必要最小限度であれば園専用のUSBメモリでの持ち出しを認めていますと記載されています。ここについて、具体的に教えてください。また、個人情報保護についての責任者は誰ですか。

A：先生が必要な際に、パスワードを付けて運用しています。使用後は、保存したものは削除することとしています。責任については、理事長が負います。

【意見】

- ・引き続き担当課と緊密な連携をとり、法人としては新しい事業となる放課後児童クラブ運営を適切に行っていただきたい。

【審査】

- ・社会福祉法人木崎育援会　－600点満点中495点
- ・基準点（合計得点300点）以上の得点
- ・挙手全員により、社会福祉法人木崎育援会を指定管理者候補者に選定することを適当と認める。

6 その他

- ・審査報告書の作成は事務局で作成し、委員長から市長に報告
- ・市長へ報告後、報告書の写しを委員へ送付
- ・来年度の審査委員会について

7 閉会（高島事務局長）

以上をもちまして、平成30年度第1回太田市指定管理者候補者審査委員会を閉

会いたします。長時間の審議ありがとうございました。